

第2回

ひろしま災害後のこころの支援勉強会
公開セミナー

インタビューの目的及び対象者の選定

- 災害後の継続的なこころの支援を考えるにあたり、実際に災害支援の現場に携わっておられる方、状況を知っておられる方にインタビューを行い、現場の声を聴くこと。
- その内容をもとに、支援者がいま求めていることを整理し、支援者向けの第2回公開セミナーに反映させること。

インタビューの流れ

- ・ 対象者とコンタクトを取り、趣旨を説明し、了解のもとインタビューを受けていただいた。

(守秘義務等などの注意事項も説明も含む)

方法: 対面式(実際には、電話や文書で回答を頂いた方もあった)

理由: できるだけ対面で話し言葉でその場の雰囲気を感じながらインタビューをすることを大切にしたい思いがあった。

時間: 約20分

質問項目

1. インタビューを受けるにあたってのお気持ち

2. 第1回公開セミナーを受けて、役に立ったことや助かったこと、またもう少し知りたかったこと

(参加されていなかった方へは、この3か月どのようなことを大切にしながらやってこられたか、知りたかったことや疑問)

3. 3か月が過ぎた今、自分自身や地域、職場でどのような感じにいるか。(地域や職場でできる話題なども含めて)

質問項目②

4. 今後、予想されること、これからしようとしていること

5. インタビューの後のお気持ち

インタビューの内容を検討し、今回の公開セミナーの内容に反映させている。

結果

実際の話を書かないとわからないことが沢山あると感じ、それぞれ自分ができることはなにかと問いながらやってこられたと思った。

支援が長期化すると、支援者側の温度差や、疲弊感が出てきやすい。
(従来の災害支援の研究と同様)



中長期の支援を続けていくには、支援者の方々が、これまでしてきたことの意味を確認していくことが必要

公開セミナーの構成

● 災害から3か月後の心身の状態について 瀬野川病院 精神科医 井上真一

● 中長期視点からみるこころのケアと視点

① 支援者が機能するためには—支援者のメンタルヘルスを通じて—

トポスの森代表 臨床心理士 岡田幸彦

② 子どものこころのケア—発達障害を中心に—

国立病院機構広島西医療センター小児科医 漆崎和範

③ 大人のこころのケア

杉原心理相談室 臨床心理士 杉原太郎

● まとめ 杉原心理相談室代表 橋本智恵美